

子どもを社長にする子育ての極意(第7回)

本音が小山進をショコラ界の天才へと導いた(前編)

2016.06.09

経営者の育てられ方から子育ての極意を学ぶ連載。今回、取り上げるのはショコラティエ(チョコレート菓子職人)として有名なパティシエ エス コヤマの小山進社長です。父親もケーキ職人だった小山社長は、子どもの頃からケーキ職人をめざしていたわけではありません。ある年のクリスマスに父親が初めて胸の内を打ち明けたことで、父の背中を追いかけて決めたのです。前編ではそれに至る母親の子育てを紹介します。

パティシエ エス コヤマ社長・小山進の場合



(写真/宮田昌彦)

小山進(こやま・すすむ)

1964年生まれ。83年に「スイス菓子ハイジ」に入社。2000年パティシエ エス コヤマを設立。03年、兵庫県三田市に出店。チョコレートの祭典「サロン・デュ・ショコラ・パリ」をはじめ、海外のコンクールで受賞多数

兵庫県三田市にある「パティシエ エス コヤマ」は、その人気では日本でも指折りの洋菓子店だ。約5000平方メートルの敷地はさながら「お菓子のテーマパーク」。

チョコレート専門店やカフェ、お菓子教室などが点在し、1日約4000人が訪れるという。全国の商業施設から出店依頼は絶えないが、すべて断っている。そのため北は北海道、南は沖縄から、わざわざ飛行機に乗って買いに来るお客までいる。

オーナーは小山進。毎年フランスで開催されるチョコレートの祭典「サロン・デュ・ショコラ・パリ」において、4年連続最高位、そして3度の最優秀賞に輝いていることなどから、その名は日本を超え、世界にとどろく。

そんな押しも押されぬこの名店に、毎月のように小山の両親がやってくる。

ほかのお客と一緒に長蛇の列に並び、最愛の息子の菓子を買って求めるだけではない。開店当初は、母親が「お店というのは、トイレが汚かったらあかんのや」と言いながら、勝手にトイレ掃除をしていた。

母親は今も小山をつかまえては、「絶対に派手なことをしたらあかんで」「周りの方とはうまいことってんのか」「もし、あんたが世の中でうまいことしていないとしたら、私のせいやから、教えてな」などと、諭すように繰り返すそうだ。

「来るなどと言えんし。俺、結構頑張ってるねんけどなあ」

そう言って小山は笑う。

小山の父親もまた、ケーキ職人だった。朝から晩まで、コツコツと働く父親の背中を小山が追いかけたのかというと、いきさつはそう単純ではない。

エリートになることを願った母… 続きを読む